

山大グリーン・ツーリズム

—大学のもう一つの楽しみ方—

代表者 豊田実歩（教育B 2年）
構成員 中川孝典（理学B 4年） 菅井佐津紀（教育B 2年） 神河裕未（教育B 2年）
大澤将基（経済B 2年） 河野聖都（経済B 2年）
門周佑（農学B 2年） 檜原康太（理学B 1年）
中川壮（経済B 1年）

1. 目的

4月に入学した1年生や留学生は、新たな環境に慣れず、下宿先と大学を往復する生活をしている人が多いと考える。そのような中で、大学内の畑を用い、「畑に行けば誰かがいる」という環境を作り、山口大学生のもう一つの居場所づくりをする。また、見過ごされがちな大学内にある多くの資源を発見し、有効活用し、大学内の環境改善、プロジェクト参加者の自然を感じる生活に貢献する。

2. 活動内容

2-1 構成員と参加者（山口大学生）が、苗植えから収穫を行う

それぞれ「マイ野菜」を持ち、愛着と責任を持って世話できるようにする。

(1) 苗植えの準備

実施日時 : 6月3日（火）18:00~19:30

場所 : くいしんぼう畑（第2学生食堂「きらら」横の畑）

活動者 : 4人（構成員）

活動内容 : マルチはり

ごみを出さないために、何度も使用できる不織布マルチを使用した。



図1 マルチはりの様子

(2) 第1回夏野菜の苗植え

実施日時 : 6月15日(日) 10:00~11:30

場所 : くいしんぼう畑

参加者 : 12人(内新入生3人, 留学生4人)

活動内容 : 苗植え(オクラ・ピーマン・ミニトマト・ゴーヤ・ししとう), 花壇の草引き

まずは始めに, 自分の「マイ野菜」の名札づくりとして, 自己紹介をしながらアイスを食べた。そのアイスの棒に自分の名前や, 野菜に名前をつけて書き, 「マイ野菜」のそばに立てた。「とまっち」や「井上さん家のピーマン」などユニークな名前がたくさんあった。(下記の写真)



図2 オクラの「おっちゃん」(留学生A)

(3) 花壇にコスモス植え

実施日時 : 6月28日(土) 18:00~19:00

場所 : くいしんぼう畑

活動者 : 6人(内留学生4人)

活動内容 : 花壇にコスモス植え

プランターにまいていたコスモスの種が芽を出し, 花壇に植え替えた。台湾, タイ, タンザニアからの留学生と活動し, 4か国の人が集まりグローバルな畑となった。



図3 コスモスの植え替えの様子



図4 9月にはこんなに満開になりました

(4) 夏野菜の片づけ・秋野菜の種まき

実施日時 : 10月15日(水) 14:00~16:00

場所 : くいしんぼう畑

活動者 : 7人(内留学生1人)

活動内容 : 夏野菜の収穫・片づけ(ピーマン・ゴーヤ・オクラ), 肥料まき, 秋野菜の種まき(大根・玉ねぎ・白菜)

タンザニアの留学生から、来年のためにオクラの種を取っておいたらどうかと提案があり、オクラの種を採取した。採取したオクラの種のように、畑での人と人とのつながりも来年につなげていきたいなと思った。



図5 夏野菜の片づけの様子



図6 秋野菜の種まきの様子

2-2 収穫祭を行い、交流を深める

前期と後期にそれぞれ3回の収穫祭を行った。

(1) 第1回収穫祭

実施日時 : 7月22日(火) 16:00~16:30

場所 : くいしんぼう畑

活動者 : 4人(内留学生1人)

活動内容 : 収穫(なすび・きゅうり・オクラ・ししとう)

タンザニアからの留学生と、この野菜は母国にはあるのかといった話や、どのように料理するのかといった話をしながら収穫を楽しんだ。

(2) 第2回収穫祭

実施日時 : 7月31日(木) 15:00~15:30

場所 : くいしんぼう畑

活動者 : 4人(内留学生1人)

活動内容 : 収穫(きゅうり・オクラ)

台湾からの留学生と収穫を行った。母国の畑の話で盛り上がり、次は台湾の畑に招待していただく約束をした。

(3) 第3回収穫祭

実施日時 : 8月5日(火) 7:30~8:30

場所 : くいしんぼう畑

活動者 : 9人(内留学生1人)

活動内容 : 収穫(きゅうり・オクラ・トマト)

暑さを凌いで朝早くから行ったにも関わらず、たくさんの方々が参加してくださり賑やかな収穫祭となった。

(4) 第4回収穫祭

実施日時 : 8月28日(木) 8:30~10:00

場所 : くいしんぼう畑

活動者 : 2人

活動内容 : 草引き, 収穫(カボチャ・オクラ)

6月の初めに植えた5株のカボチャの苗から、約60個のカボチャを収穫することができた。



図7 第3回収穫祭にて収穫した野菜



図8 第4回収穫祭での約60個のカボチャ

(5) さつまいも堀り

実施日時 : 11月12日(火) 16:00~17:00

場所 : くいしんぼう畑

活動者 : 26人(内留学生13人)

活動内容 : さつまいも堀り

学生食堂や国際交流会館にポスターを掲示した効果があったのか、留学生がたくさん参加してくださり、さつまいも堀りを通して交流することができた。全部で51個のさつまいもを収穫し、参加者全員に持って帰ってもらうことができた。後日、参加者の方から、「大学芋にしたよ!」というお言葉をいただき、とてもうれしかった。



図9 集合写真



図10 収穫したさつまいもと一緒に

(6) 白菜パーティー

実施日時 : 平成27年2月12日(木) 9:00~13:30

場所 : くいしんぼう畑・平川地域交流センター

活動者 : 13人(内留学生1人, 地域の方2人)

活動内容 : 白菜・大根・カブの収穫, 料理(白菜と豚肉のミルフィーユ鍋・大根の煮物・菜飯・カブの酢の物)

これまで畑でのつながりを再確認し, 感謝の気持ちを伝えたいという思いで企画した。当日は, これまで活動してきたメンバーや留学生, また畑で活動する中で出会った地域のご夫妻, 今回初めて参加して下さった方と一緒に活動する中で, これまでの思い出を振り返ることでできた。その中で, 自分達で栽培し, 収穫した野菜をみんなで食べる幸せを実感した。



図11 白菜の収穫の様子



図 12 料理の様子



図 13 食事の様子

2-3 大学内にある資源を活用する

「大学内にあるもので。大学外にごみを出さない」という大学内で完結する栽培を目指す。

(1) 支柱づくり

実施日時 : 6月18日(水) 18:00~20:00

場所 : 吉田地区男子学生寮「吉田寮」前の竹藪, くいしんぼう畑

活動者 : 6人(内留学生1人)

活動内容 : 竹取り, 支柱づくり

施設管理の職員の方のご指導のもと、「吉田寮」の前にある竹藪から竹を伐採し、支柱を作った。支柱を固定するためのひもの結び方も教えていただき、キュウリやゴーヤ、トマトに支柱をすることができた。



図 14 山口大学産の竹の支柱

(2) 肥料づくり

実施日時 : 11月12日(火) 14:00~15:00

場所 : くいしんぼう畑

活動者 : 3人

活動内容 : 肥料づくりの枠の設置

隣の畑で栽培されている施設管理の職員の方にご指導いただき、肥料づくりの枠を設置した。



図 15 肥料づくりの様子

2-4 広報活動を行う

畑での活動をポスターにし、掲載する。

(1) 活動 PR のポスターづくり

実施日時 : 8月29日(金) 13:00~17:00

場所 : 自主活動ルーム

活動者 : 2人

活動内容 : 前期活動 PR のポスターづくり

前期の活動の様子を画用紙にまとめた。作成しながら、畑での活動を通して出会った人達のことを思い返し、畑という場所が人と人をつなげる場所になるということを再確認した。



図 16 PR ポスター (自主活動ルーム掲示板)

(2) さつまいも掘り宣伝ポスター作り

実施日時 : 10月22日・19日 14:00~15:30

場所 : 自主活動ルーム

活動者 : 9人 (内留学生2人)

活動内容 : 11月12日実施のさつまいも掘りの宣伝ポスターの作成

メンバーでポスターを作成していると、ハンガリーとウクライナからの留学生が来られて、一緒にお話をしながら、ポスターを作成した。このことから、畑だけでなく、自主活動ルームなど他の場所で活動することで、出会いの場が増え、畑での活動を紹介できる機会になることを実感した。

(3) さつまいも掘り活動報告ポスター作り

実施日時 : 11月19日・26日 12:00~12:40

場所 : 自主活動ルーム

活動者 : 6人

活動内容 : さつまいも掘り (11月12日実施) の活動報告ポスターの作成

自主活動ルームで以前、消しゴムハンコの講習会を開催されていた学生が、消しゴムハンコを貸して下さり、おかげで素敵なポスターが完成した。野菜の消しゴムハンコを作りたくなった。また、ポスターを作成していて、参加者の顔が写っている写真を使って良いか迷った。写真を撮る前に許可を取る必要性を感じた。

(4) 白菜パーティー宣伝ポスター作り

実施日時 : 1月23日 (金) 10:00~12:40

場所 : 自主活動ルーム

活動者 : 4人

活動内容 : 白菜パーティー (2月12日実施) の宣伝ポスターの作成

11月のさつまいも掘りの宣伝ポスターを参考にし、留学生が分かりやすいように日本語と英語で表記した。また今回は白菜の他に材料が必要であったため、参加費の設定の際、他の団体の参加費を参考にさせていただいた。

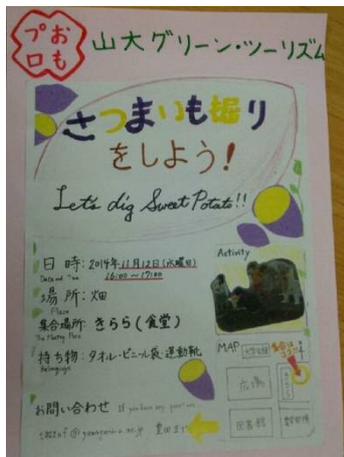


図 17 さつまいも掘り
宣伝ポスター



図 18 さつまいも掘り
活動報告ポスター

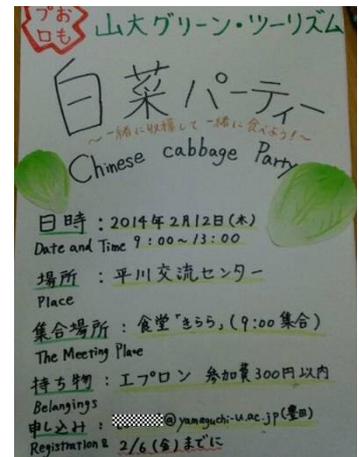


図 19 白菜パーティー
宣伝ポスター

(5) 畑の看板作り

実施日時 : 3月15日 (日) 10:00~13:30

場所 : くいしんぼう畑

活動者 : 5人

活動内容 : 畑の看板作り, 草引き, 収穫 (大根・カブ)

活動の集大成として、くいしんぼう畑の看板を作成した。板の組み立てやデザインを描くことを手分けして行った。くいしんぼう畑の「ぼ」の濁点としてトマトのへたを書く時、細かいから後でマジックを使って書こうとしていたが、工作の得意なメンバーが木の枝の先にペンキをつけて書いてくれた。このように一人一人の工夫により、看板を立てることができ、畑がより自分達の居場所を感じた。この看板が一人一人の居場所感や畑に初めて訪れる人の目印、畑の宣伝につながれば良いと思う。



図 20 看板作りの様子



図 21 完成した看板

2-5 栽培マニュアルを作成する

栽培する野菜について日々研鑽し、学んだことや感じたことをノートに記録した。活動後に毎回記録しすることで、活動の振り返りができ、次の活動、また来年度の活動につなげることができた。しかし、本来はこのノートを畑に常備し、活動者が記入して、メンバーの情報共有にもつなげたかったが、行うことができなかった。

記録期間 : 平成 26 年 8 月 7 日 (木) ~ 平成 27 年 3 月 15 日 (日)

記録内容 : 例 【日時】 9 月 22 日 (月), 【天気】 晴れ,

【活動時間】 13:00~15:00, 【活動者名】 中川・神河・豊田

- 【活動内容】
- ・ 収穫 (ピーマン・ゴーヤ・トマト)
 - ・ 収穫後の野菜の苗の片づけ (ピーマン・トマト・オクラ)
 - ・ 肥料づくりの枠づくり

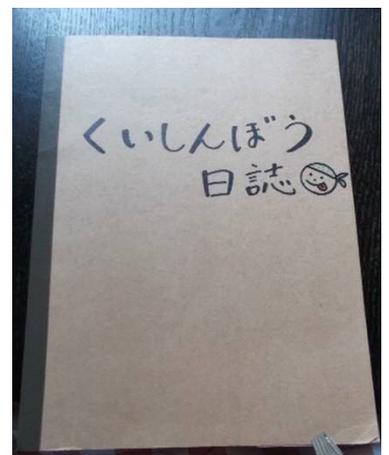


図 22 活動記録ノート

- 【気づき】
- ・ トマトは時期を過ぎると赤くならなくなる
 - ・ 肥料づくりの枠のブロックが足りなかったため、調達する
 - ・ ピーマンとゴーヤはまだ実っているので、そのままにする
 - ・ 友達にもピーマンとゴーヤをお裾分けでき、健康のサポートができた
- 【次回すること】 マルチはがし、種まき

3. これまでの活動の反省点

3-1 良かった点

- (1) 畑での活動を通して、4人の留学生と地域のご夫婦などたくさんの方と交流することができた。
- (2) 施設管理の職員の方のご指導のもと、竹で支柱を作ったり、収穫し終えた野菜の苗で肥料づくりを行ったり大学の環境改善に努めることができた。
- (3) 畑での活動の中で、夕日を見たり、虫の音を聞いたり参加者の自然を感じる生活に貢献することができた。
- (4) たくさんの野菜を収穫することができた。(きゅうり約50本、オクラ約100本、ゴーヤ約50本、ピーマン約100個、カボチャ約60個、すいか2個、さつまいも約51個、白菜、大根、カブ)
- (5) 活動の宣伝ポスターを国際交流会館や第2学生食堂「きらら」に掲示することで、留学生の参加を促すことができた。
- (6) 毎回活動後に活動記録を行うことで、振り返りを行うことができ、次の活動、来年度の活動に生かすことができた。
- (7) てくてくツアーで畑を紹介することができ、地域の方々にもこの活動を知ってもらえることができた。一緒に収穫も行い、野菜を持って帰っていただけた。参加者の方から、「このような活動していることを知らなかった」という声があり、活動を発信していく大切さを実感した。
- (8) 構成員と参加者でラインのグループを作り、そこで常時畑の様子をお届けすることができた。

3-2 改善点

- (1) 畑での活動日が不定期で、「畑に行けば誰かがいる」という環境を作ることができず、参加者一人一人の居場所にするができなかった。改善方法として、毎週何曜日の何時から活動するというように、活動を明確にし、「畑に行けば誰かがいる」という環境を作りたい。
- (2) 新入生の参加が少なかったため、勧誘していきたい。
- (3) イベントなど日時の連絡が遅くなることが多く、参加者の方から「もう少し早く連絡してほしい」という声があった。ハウレンソウ（報告、連絡、相談）を大切にしたい。
- (4) 収穫物を参加者には提供することができたが、他の学生にはできなかったため、広報活動もかねて収穫物を加工して配布したり、展示したりして、多くの人に畑の恵みを提供していきたい。
- (5) 種まきや苗植えは、多くの参加者の方で行えたが、収穫して食べるということができなかった。今後はイベント内容、食べたい料理などゴールから計画を立て、それに沿って計画的に野菜を栽培したい。
- (6) 栽培する野菜の種類や量が多く、手入れが行き届かなかったり、種まきや苗を植えかえる時期が遅れしまったりすることがあった。収穫までの見通しを持って栽培する。
- (7) 参加者の中で、種まきだけの参加というように、収穫まで一緒に行うことができなかった方がいた。継続して畑に関わるができるような環境にする必要性を実感した。行きたいと思う場所、居場所とを感じる瞬間とは何なのか考えていきたい。

4. まとめ・これからの抱負

前期の畑での活動を思い返すと、畑での活動を通して出会った人達のことを思い出し、とても温かい気持ちになる。このような人と人をつなげる畑を一人でも多くの人に実感してもらいたいと思う。また、本プロジェクトを通して、栽培した野菜を料理することで台所に立つことが増え、「食」について考えることが多くなった。自分で育て収穫した野菜を、調理し食べることはとても幸せなことであることを実感し、このような幸せをより多くの人と共有したいと思った。これからも、畑を一人でも多くの人のもう一つの居場所、また、自らの「食」について向き合う場所にしていきたいと思う。

これまで畑でつながった方々に感謝の気持ちを持ち、このつながりを大切にしていきたい。